

報道解禁あり

月 日

2021年11月11日

■分野:情報通信・建設

岩田地崎建設とソフトバンク、 NTN ソリューションを活用した建設現場の ICT 化を推進

～圏外の建設現場で衛星通信を利活用した共同実験を実施～

岩田地崎建設株式会社（本社：札幌市中央区、代表取締役社長：岩田 圭剛、以下「岩田地崎建設」）とソフトバンク株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員 兼 CEO：宮川 潤一、以下「ソフトバンク」）は、NTN（Non-Terrestrial Network: 非地上系ネットワーク）ソリューションを活用した建設現場の ICT（情報通信技術）化の推進を目的として、携帯電話のサービスエリア外（以下「圏外」）の建設現場における次世代高速衛星通信の利活用について覚書を締結し、共同実験を実施することで合意しましたのでお知らせします。

ソフトバンクは、固定通信回線の敷設が困難な山間部や離島などで、衛星通信を伝送路として利用する基地局を設置することで、高速な LTE の通信サービスを提供してきました。このたび岩田地崎建設とソフトバンクは、通信環境が整っていない圏外の建設現場に衛星通信を伝送路とした LTE の通信環境を構築して、通信回線の品質評価や導入効果の測定、ユースケースの検討などを行います。

この実験は、岩田地崎建設が施工中の幾春別川総合開発事業における熊追沢林道付替外工事※¹（北海道三笠市）で実施します。このエリアは通信環境が整備されていないため、連絡体制の整備や ICT 機器の活用ができないことが課題になっています。このエリアに衛星通信を活用した LTE の通信環境を構築することで、圏外の建設現場でも建設機械の自動制御といった ICT 施工※² やウェブカメラなどを活用した遠隔臨場※³ など、ICT を活用した工事が可能になることが期待されます。

岩田地崎建設とソフトバンクは、次世代高速衛星通信や成層圏プラットフォームといった NTN ソリューションを利活用することで、建設現場の ICT 化を推進し、建設業における生産性の向上と安心・安全な施工現場の実現を目指して、取り組みを進めていきます。

■衛星通信を伝送路とする基地局が設置された建設現場写真



❖ 用語解説

※1 幾春別川総合開発事業は、洪水から流域の安全を守り、広い地域に水を供給するため、桂沢ダムのかさ上げを行う新桂沢ダムと、幾春別川の支川である奔別川に三笠ぼんべつダムの新設を行う事業です。本工事は、新桂沢ダム建設に伴う林道の付替工事を行うものです。詳細はこちら

(https://www.hkd.mlit.go.jp/sp/ikushunbetu_damu/index.html)をご覧ください。

※2 建設工事の調査・設計・施工・監督・検査・維持管理といった生産工程で、ICTを使って各工程から得られる電子情報を活用して高効率・高精度の施工を行い、さらに施工の工程で得られた電子情報を他の工程にも活用することで、建設工事における生産性の向上や品質の確保などを図る施策・システムのこと。

※3 工事の発注者などが遠隔から現場の状況や進捗などを確認すること。

- SoftBank およびソフトバンクの名称、ロゴは、日本国およびその他の国におけるソフトバンクグループ株式会社の登録商標または商標です。
- その他、このプレスリリースに記載されている会社名および製品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。

❖ 本件に関する問い合わせ先

岩田地崎建設株式会社

総務部広報課 担当:工藤

Tel:011-221-2201、E-mail: yosuke.kudo@iwatachizaki.jp

ICT推進部 推進課 担当:飯田

Tel:080-4602-3442、E-mail: y-iida@iwatachizaki.jp

ソフトバンク株式会社 広報本部

Tel:03-6889-2301 E-mail: sbpr@g.softbank.co.jp

担当:森(080-4408-5260)、中垣(090-3910-4016)

以上